

若者言葉の実生活での使用

倉藪竜夢 23B40562
東京工業大学生命理工学院

1. はじめに

『若者言葉を日常生活で用いることは良い印象を与えるか否か』というリサーチクエスチョンに取り組むため、調査研究を行う。

2. 方法

Googleフォームを用いてアンケート調査を行う。X(旧Twitter)とLINEを通じてURLの共有を行い、回答者は主に東工大生と高校時代の同級生を対象としている。様々な若者言葉のそれぞれの使用頻度と印象の善悪に関する質問を設けた。

3. 結果

使用頻度について、「意味を知らない」を -1pt、「ほとんど使用しない」を 0pt、「たまに使用する」を 1pt、「定期的に使用する」を 2ptとしてポイント計算した。それぞれの言葉に対する印象についての結果を「善」「悪」のように掲載し、次の表のようになった。今回提示する若者言葉の中いわゆる「ネットスラング」と呼ばれるものがあり、それを表中の下線で示した。注目すべき箇所である。

表1:15の若者言葉と回答者(156人)の認識

若者言葉	使用頻度 (pt)	善	悪
ウケる	113	122	13
エモい	82	110	15
蛙化	26	46	58
草	195	72	43
社不	145	56	64
それな	229	130	7
<u>チー牛</u>	61	25	109
尊い	82	98	8
パリピ	25	63	14
ぴえん	66	56	46
<u>フラグ</u>	155	86	8
<u>レスバ</u>	48	42	32
<u>フロタ</u>	111	45	57
(語尾に)ンゴ	41	15	126
(語尾に)www	163	54	48

4. 考察

「3.結果」でも述べたように、アンケート内ではそれに関する記述を一切しなかったが、提示した15の言葉のは、8の「通常の若者言葉」と7の「ネットスラング」で構成されている。表を見ると、「善」と回答された人数が多いワードのTOP3は「通常の若者言葉」であり、「悪」と回答された人数が最も多いワードのTOP3が「ネットスラング」であることがわかる。このことから、ネットスラングが否かの2つの分類によって若者言葉に対する善悪の印象に傾向があることがわかる。また、使用頻度に着目すると、得票数を上から見たときに「通常の若者言葉」と「ネットスラング」が入り混じっていることから、使用頻度に関しては特にこの2つの分類ごとに偏りがなかったことがわかる。このような結果になったのは、「若者ことばが定着する特徴」の1つとして考えられている、「使用場面が広いこと」が密接に関係していることが考えられる。若者がその言葉を使用する場面に遭遇することが多いからこそ、使用頻度もそれに伴って高くなるわけだ。

5. おわりに

『若者言葉を日常生活で用いることは良い印象を与えるか否か』という問いに対する答えとしては、同世代にアンケートを実施した結果、「ネットスラング」であるか否かで良い印象を与えるかどうか左右されることがわかった。

文献:

桑本裕二 (2002) 「若者ことばの発生と定着について」秋田工業高等専門学校研究紀要 巻 38, p. 113-120